

キャラクター名  
八月一日 叶(ほずみ かなえ)

プレイヤー名

シンドローム	オルクス		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	高校生
	オルクス					
オプション			年齢	16	性別	女
覚醒	生誕	衝動	吸血	初期侵食率	34	%
出自	安定した家庭	経験	約束	邂逅	主人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	0	1	1	2		4	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	4	0	0			4	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	7		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	8		調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
日本刀	白兵	4r+6	3	5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
超血統	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12    残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-LV(下限6)								
縮地	7	2	オート	至近	自身	-	-	
効果: 戦闘中の移動、離脱: シナリオLV回								
形なき剣	1	2	メジャー	武器	対決	白兵・射撃	-	
効果: ドッジD-LV								
アニマルテイマー	5	3	メジャー/リアクション	-	-	シンドローム	-	
効果: 判定D+(LV+1)								
バックスタブ	9	-	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果: 白兵の攻撃力+(LV*5)								
力の法則	4	4	オート	資金	自身	自動	100↑	
効果: ダメージ直前。ダメージ+(lv+1)D。1ラウンド1回。								
仕組まれた幸運	★		メジャー					
効果:								
地獄耳	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「貴方は普通とはかけ離れた存在、決して知られてはいけない。いつまでも一緒に居たいでしょう？」  
「賢い子だから分かってくれる、優秀な子だ」と言われて育ってきた。  
自分は危うい存在で、自分を抑制できなければ消される可能性がある話を聞いてしまった。  
私は微笑みながら言う「大丈夫だよ、心配要らないから」本当の本心は…?

プロフィール  
・名前: 八月一日 叶(ほずみ かなえ)・血液型: A型・誕生日: 8月30日・星座: 乙女座  
・家族構成: 父、母、弟・性格(表): 接しやしい明るい、世話好き、よく笑う・性格(裏): 無気力、無感情  
・一人称: 私、ウチ(場合によって使い分ける)・長所: 積極的、我慢強い・短所: 抱え込む  
・趣味: 料理・特技: なし・部活: 剣道部マネージャー、放課後課外活動  
・髪型: ハーフアップ、長さは腰〜お尻辺り・髪色: 亜麻色、錆利休・瞳の色: 空五倍子色・肌の色: 乙女色  
・服装: 制服、普段着は流行りの服でかわいめ・視力: 眼鏡なし・利き手: 左  
・癖: 後ろで手を組む、右手の関節を左手で押さえるようにしている。

今までの物語  
物心着く頃には見知らぬ箱の中で生活していた。  
必要なものは届くし、モニターを通して会話や教養を学ぶこともできる。  
両親ともモニター越しに会話する。「今日の調子はどうだい?」「気に入ったものはある?」などの質問が続く。  
私は淡々と答える。「今日は元気です」「この前くれた本が気に入りました」と、相手が求める"子供らしい"答えもした。  
そうすると満足そうに「よかった、不便なことがあったら直ぐに言ってね」「私たちは叶、君の親だから出来ることを何でも言ってくれ」自分たちの欲求を満たすように言ってくる両親に私は「大丈夫だよ、私はいい子だからお話を来てくれるの待ってる」としか伝えなかった。私の本心を話したところで要求が通るような状況じゃないと理解していたからだ。